

日光国立公園ステップアッププログラム 2020（中間とりまとめ）

はじめに

2016年3月に、政府により「明日の日本を支える観光ビジョン」がとりまとめられ、訪日外国人旅行者数を2020年までに4,000万人とすることが新たな目標として掲げられた。

この目標を達成し、なおかつ裾野の広い観光を通じて活気ある地域社会の実現を目指すためには、これまで十分に活用されていないものを含め、我が国の自然・文化・気候・食等の豊富な観光資源を今まで以上に活用することが必要となってくる。

その点、我が国の国立公園は、豊かな自然のみならず、地域に根ざした生活文化や地域産業、食等の魅力ある観光資源を有しているが、これまで十分にそのポテンシャルが発揮されていなかった。

そこで上記のビジョンを踏まえ、日本の国立公園を世界水準の「ナショナルパーク」としてのブランド化を図ることを目標に、「国立公園満喫プロジェクト」として、2020年までに訪日外国人を惹きつける取組を計画的、集中的に実施し、訪日外国人の国立公園利用者数を現在の年間430万人から2020年には2倍以上の1,000万人に増やすことを目指すこととなった。

本プログラムは、上記の目標を達成するため、全国の国立公園の中で、世界最高水準の「ナショナルパーク」づくりという改革に挑戦する候補地として先行的、集中的に取組を実施する国立公園に選定された日光国立公園における具体的な取組について、2016年度から2020年度までの5年間を計画期間とした“ロードマップ”として位置づけるものである。

1 現状分析

(1) 日光国立公園の特徴

ア 全体の概要

日光国立公園は、那須火山帯に属する山々や豊かな森林、溪谷、湖、滝、湿原等、火山群と水が織りなす自然景観が特徴で、ラムサール条約湿地「奥日光の湿原」等、世界的にも貴重な自然が広がっている。

春は花、夏は水、秋は紅葉、冬は雪と、日本の四季を満喫できる自然環境に加え、世界文化遺産「日光の社寺」や皇室ゆかりの施設、旧外国大使館別荘など、歴史・文化遺産を多数擁するほか、火山と水の恵みである温泉も豊富で、歴史ある古湯・秘湯も数多く点在する。

また、JR、東武鉄道及び東北自動車道が県内を縦断しており、空港や主要駅から直通の高速バス等も運行されているなど、公共交通により東京から最短約2時間でアクセスが可能であり、首都圏から非常に近い位置にあることも大きな特徴となっている。

イ 各エリアの概要

a. 日光エリア

日光エリアは、世界文化遺産「日光の社寺」や日光田母沢御用邸記念公園、旧大使館別荘等の多くの歴史・文化遺産や、開湯 1200 年超の歴史を誇り、国民保養温泉地第 1 号でもある奥日光湯元温泉を有し、本公園内で最も多く外国人観光客が訪れているエリア。自然ガイドや文化財ガイドなど多彩なガイドツアーが提供されており、多様な文化体験も提供されている。

自然景観では、湿原、滝など豊富な水環境が特徴。世界遺産周辺から奥日光地域までは、約 800m の高低差があり、気候や植生等の垂直方向の変化も楽しめる。

b. 鬼怒川エリア

鬼怒川エリアは、大温泉地である鬼怒川・川治温泉のほか、秘湯として知られる湯西川温泉、奥鬼怒温泉郷等、多くの温泉地が点在するエリア。特に鬼怒川温泉は、大規模な温泉旅館で団体客の受入れを積極的に実施している。

自然景観では、鬼怒川沿いに広がる溪谷が特徴。温泉地近辺では、溪谷沿いを中心に遊歩道が整備されているほか、夏季はライン下りやラフティングなどの川を活用したアクティビティが、冬季はスノーシューなどの雪を活用したアクティビティが提供されており、宿を基点に気軽な自然体験ができるエリアとなっている。

c. 那須エリア

那須エリアは、那須御用邸が所在する皇室ゆかりのエリア。開湯 1380 年を超える歴史を誇る那須温泉郷や国民保養温泉地である板室温泉、温泉信仰、御神火祭などの祭、史跡「殺生石」など、火山に関連する歴史・文化が多数残されているほか、国立公園区域内外には、牧場や美術館など各種の観光施設が点在しており、大人から子どもまで楽しめる高原リゾートとなっている。

自然景観では、茶臼岳等の火山群と、山麓の森林が特徴。豊富な山岳・森林資源を活用した登山やトレッキング、ハイキング等の利用が盛んで、初心者から上級者までレベルに合わせた利用が可能となっている。

d. 塩原エリア

塩原エリアは、開湯 1200 年超の歴史を持ち、日本の温泉の泉質 10 種類のうち 6 種類、3 性質 7 色の湯が湧出する塩原温泉郷を擁するエリア。

箒川沿いに広がる塩原溪谷には遊歩道が整備されており、塩原温泉ビジターセンター主催のガイドツアー等が多数行われているほか、溪谷を活用したキャニオニング、ダム湖を活用したスタンドアップパドルボードなど、様々なアクティビティが提供されている。

ウ アクセスルートの現状

a. 世界遺産周辺までのアクセスルート

JR 日光駅または東武日光駅からバスまたは徒歩等でアクセスが可能。

駅からのアクセスルートは、世界遺産「日光の社寺」の門前町となっていることから、日光市の景観計画重点区域に指定されており、景観条例や屋外広告物条例により、屋外広告物の設置や色彩の制限、和風で伝統的な街並み景観の形成等が行われている。

また、県による歩行空間確保及び景観整備事業として、電線の地中化や歩道の拡幅等が進められているほか、市による道路の美装化も行われている。

b. 中禅寺湖畔、奥日光・湯元までのアクセスルート

JR 日光駅または東武日光駅からバスでのアクセスが可能のほか、群馬県側から金精峠を經由してのアクセスも可能（冬季を除く）。

駅からのアクセスルートは、世界遺産エリアから先は全て国立公園エリアとなっており、日光市の屋外広告物条例による屋外広告物等の設置や色彩の制限が行われている。

c. 霧降高原までのアクセスルート

JR 日光駅または東武日光駅からバスまたは徒歩等でアクセスが可能。

駅からのアクセスルートのほとんどは国立公園エリアとなっており、日光市の屋外広告物条例による屋外広告物等の設置や色彩の制限が行われている。

d. 鬼怒川・川治温泉までのアクセスルート

東武鉄道鬼怒川温泉駅及び野岩鉄道川治温泉駅からバスまたは徒歩等でアクセスが可能。

駅からのアクセスルートは、全て国立公園エリアとなっており、日光市の景観条例や屋外広告物条例により、屋外広告物等の設置や色彩の制限が行われているほか、自然と温泉街の賑わいが調和するような街並み景観づくりが進められている。

e. 湯西川・川俣・奥鬼怒までのアクセスルート

野岩鉄道湯西川温泉駅からバスでアクセスが可能。奥鬼怒では、女夫淵から先の一般車両の乗り入れ制限が実施されている。

駅からのアクセスルートは、全て国立公園エリアとなっており、日光市の景観条例や屋外広告物条例により、屋外広告物等の設置や色彩の制限が行われているほか、ダム建設に合わせた市街地の移転に伴う区画整理や道路の拡幅等も行われている。

湯西川温泉の中心部は日光市の景観計画重点区域に指定されており、平家落人の里、山間の秘湯としての雰囲気づくりが図られている。

f. 那須高原・那須岳までのアクセスルート

JR 那須塩原駅からバスでアクセスが可能。

那須高原を縦断する那須街道沿線が国立公園エリアとなっている。

駅からのアクセスルートは、那須塩原市・那須町の景観形成重点地区に指定されており、両市町の景観条例や屋外広告物条例、栃木県のとちぎふるさと街道景観条例により、建物の形状や色彩の制限、敷地の緑化、屋外広告物等の設置や色彩の制限等による景観保全の取組が行われている。

g. 板室温泉までのアクセスルート

J R 那須塩原駅からバスでアクセスが可能。

駅からのアクセスルートが那須塩原市の景観形成重点地区に指定されているほか、一部がとちぎふるさと街道景観条例の対象地域となっており、屋外広告物等の設置や色彩の制限、敷地の緑化等が行われている。

h. 塩原温泉郷までのアクセスルート

J R 那須塩原駅からバスでアクセスが可能。

駅からのアクセスルートが那須塩原市の景観形成重点地区に指定されており、屋外広告物等の設置や色彩の制限、敷地の緑化等が行われている。

i. 八方ヶ原までのアクセスルート

公共交通でのアクセスは不可。JR 矢板駅からタクシー利用のみ。駅からのアクセスルートは、市街地を抜けるとほとんどが山道となっている。

矢板市は景観行政団体ではないため、栃木県の景観条例及び屋外広告物条例の適用地域となっている。

(2) 外国人観光客の状況

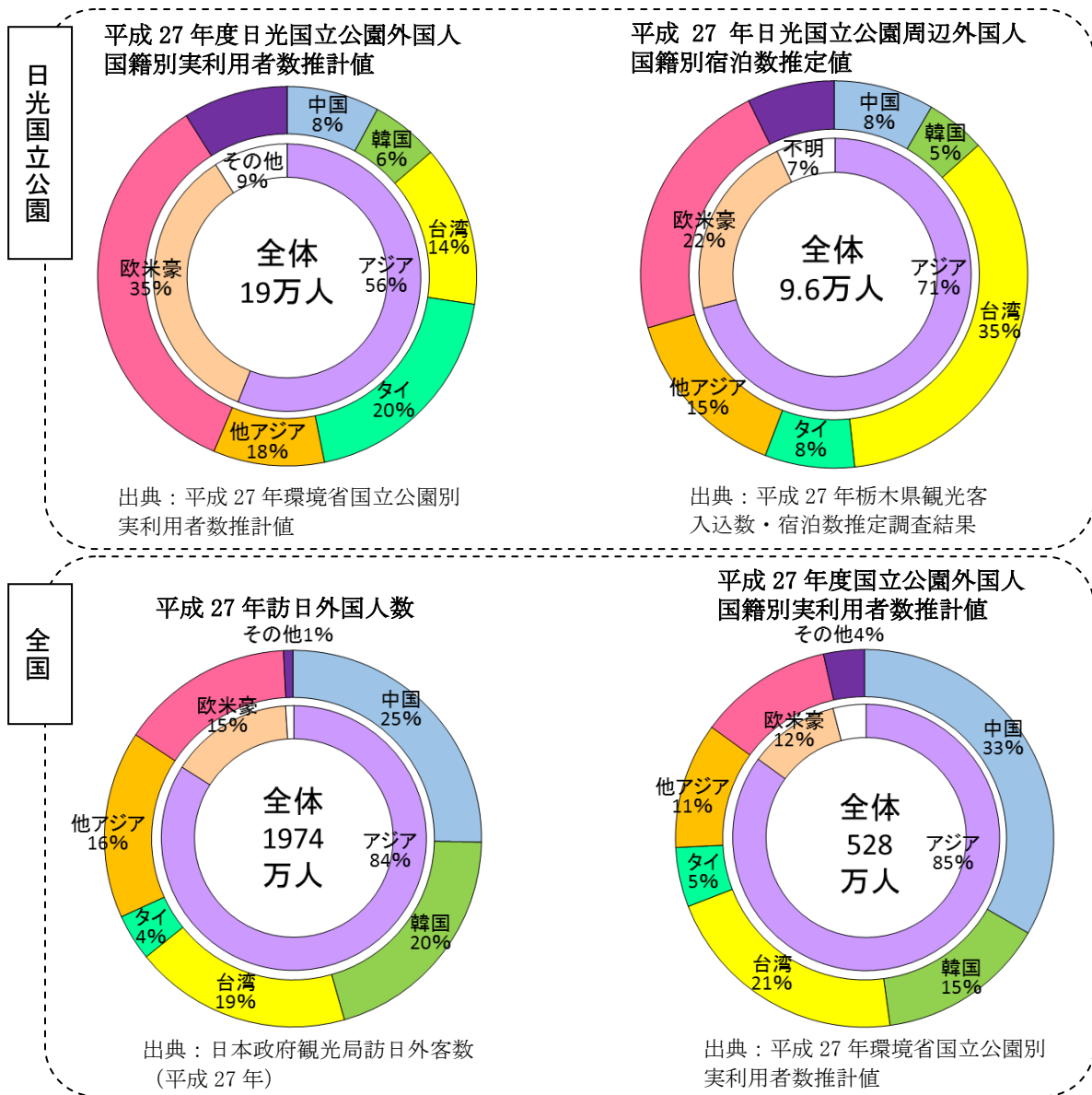
平成 27 年度の利用者数推計値では、約 19 万人の外国人が本公園を訪れており、うち約 4 割が欧米豪の旅行者となっている。国籍別で見ると、上位 5 カ国はタイ、台湾、アメリカ合衆国、中国、韓国となる。

平成 27 年の宿泊数推定値では、約 9 万 6 千人が本公園及びその周辺に宿泊しており、うち約 2 割が欧米豪の旅行者となっている。国籍・地域別で見ると、上位 5 カ国は台湾、中国、タイ、アメリカ合衆国、香港となる。

以上のことから、本公園を訪れる外国人観光客は、約 5 割が日帰りでの訪問であり、特に欧米豪やタイからの旅行者は日帰りの傾向が強いことが推測できる。

また、全国と比較すると、訪日外国人全体のうち欧米豪が 15%、国立公園利用者のうち欧米豪が 11%となっており、本公園を訪問する外国人観光客は、欧米豪の割合が非常に高い傾向にある。

国籍別に見ると、訪日外国人全体及び国立公園利用者全体では中国・韓国からの観光客の割合が高いのに対し、本公園の利用者では、台湾・タイからの観光客の割合が高くなっている。これは、自治体などが実施してきた誘客 PR 事業が台湾・タイなどを中心に行われていたことが要因と考えられる。



(3) 日光国立公園の課題

ア 観光客の利用状況

外国人観光客では、日帰りでの訪問者が多く、宿泊・長期滞在にはつながっていないため、多様なニーズに応じた宿泊プラン・施設の整備、宿泊者向けの夜間や朝のコンテンツ整備など、宿泊・長期滞在につながる仕組み作りが重要となっている。また、外国人観光客が世界遺産周辺に集中し、他エリアへの周遊には至っておらず、世界遺産に訪れた外国人観光客を、いかに国立公園全体に波及させるかといった取組も検討する必要がある。

観光客全体で見ると、5月の連休や夏休み、紅葉シーズンなどに観光客が集中しており、道路交通のボトルネック箇所や駐車場に入れられない車等が原因となり渋滞が発生し、観光流動の阻害となるなどの弊害も起こっている。一方で、冬季(12月～翌4月)は観光客数が落ち込む傾向があり、冬季を中心とした誘客促進による観光需要の平準化が課題となっている。

イ 観光資源の情報発信

日光国立公園内では、多様なガイドツアーやアクティビティ等が提供されているものの、一元的な情報発信の手段がなく、観光資源や各自治体単独でのPRにとどまっており、特に海外に向けてのプロモーションが課題となっている。

ウ 交通

鉄道や高速道路によるアクセスが充実している一方、国立公園エリアを横につなぐ公共交通機関がなく、宇都宮市まで戻ってV字でアクセスする必要があるほか、路線バス等の利便性向上や多言語化対応など、エリア内を移動するための二次交通の改善が必要な状況にある。

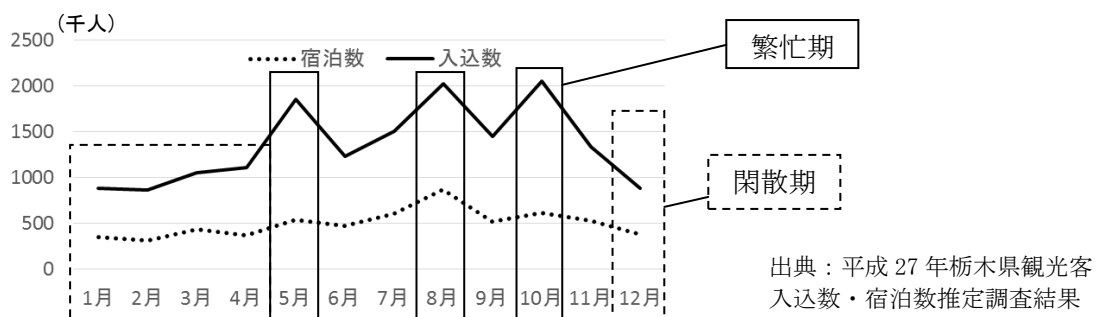
エ 景観

特に中禅寺湖畔や奥日光湯元、鬼怒川、那須湯本、塩原などの温泉街で、廃業した旅館や観光センター等が廃墟として残されており、景観を阻害していることから、廃屋等の取扱いについて検討する必要がある。

オ その他

外国人の利用実態やニーズの調査の実施に加え、トイレの洋式化、案内サインの多言語化等のユニバーサルデザイン化改修、Wi-Fi整備、外国語対応可能な自然ガイド等の人材育成、クレジットカード決済環境の整備など、外国人観光客受入に向けた態勢整備のさらなる推進が求められる。

平成 27 年日光国立公園観光客入込数・宿泊数推計(月別・日本人を含む)



2. コンセプトと取組の方向性

(1) 日光国立公園のコンセプト

【A案】 NIKKO is NIPPON

→日本の景観・四季・歴史・文化・食・温泉など、見本の魅力は全て日光国立公園で満喫できる。

【B案】 Near TOKYO, Not TOKYO NIKKO

→東京から近いが、東京では味わえないような体験ができる。

【C案】 NIKKO Nature×Culture×Adventure

→日光国立公園の自然や文化などの魅力が体験（冒険）を通して満喫できる。

【D案】 The resort of upper class NIKKO

→日光国立公園は、皇族、華族、外国大使など、上流階級が認めたリゾート地。

現時点の案（次回決定）

(2) 目指すべき姿

- ① 上質で奥深い魅力を満喫できる国立公園
- ② 体験・滞在・周遊型の国立公園
- ③ 地球環境にも配慮した国立公園

(3) 取組の方向性

- ① 日光国立公園が持つ上質な観光資源を磨き上げ、新たな魅力を創出するとともに、外国人観光客の受入態勢を整備し、より魅力的な国立公園としてブラッシュアップしていく。
- ② 国立公園内で実施されている様々な体験や、各エリア間の連携を強化し、点ではなく線・面的に周遊できる仕組みを作る。
- ③ マイカー利用から公共交通・自転車等の利用への転換、次世代自動車等の活用、再生可能エネルギーの活用など、地球環境に配慮したゼロエミッションの取り組みを推進する。

(4) ターゲットとする利用者層

これまでの傾向から、利用者数の多い欧米系の個人旅行者を中心に誘客を行いながら、近年増加傾向にあるタイなどのアジア市場も開拓していく。特に、山や川などでの自然体験に加え、歴史遺産や温泉等の日本文化体験に関心のある層の誘客を図る。

各エリアや素材ごとの詳細な誘客ターゲットについては、今後、外国人の動向調査やニーズ調査を元に検討を進めていく。

3. 目標

(1) 訪日外国人利用者数

2020年の日光国立公園外国人利用者数 50万人を目標とする。

2015年日光国立公園訪日外国人利用者数：19万人

※ 平成27年環境省国立公園別実利用者数推計値による。(標準誤差率5%)

(2) 訪日外国人宿泊者数

2020年の日光国立公園及びその周辺での訪日外国人宿泊者数 25万人を目標とする。

2015年日光国立公園周辺訪日外国人宿泊者数（推計）：95,583人

【内訳】	日光市	： 70,295人	那須塩原市	： 10,265人
	那須町	： 14,292人	矢板市	： 726人
	塩谷町	： 5人		

※ 平成27年栃木県観光客入込数・宿泊数推定調査結果による。

4. プロジェクトの実施

(1) 日光国立公園全体の取組

ア 受入態勢の整備

a. ハード整備

- ・ フリーWi-Fiの整備
- ・ 遊歩道、園地等で施設の再整備やITを活用した標識の設置等を実施
- ・ 多言語化や公衆トイレの洋式化など公園施設のユニバーサルデザイン化
- ・ 駐車場等の公園利用施設の有料化と良質な維持管理手法の検討

b. 案内機能の強化

- ・ 自然ガイド等の外国語対応力強化研修の実施
- ・ 自然ガイドの育成システムの構築
- ・ コミュニケーション支援ボード等の案内ツールの普及・活用
- ・ ビジターセンター等を複合的機能を持つ施設として再整備
- ・ 利用者向け多言語パンフレットやマップの作成

c. 交通アクセスの改善

- ・ 渋滞のボトルネック箇所を改良し、渋滞を緩和
- ・ 公共交通のPR・利用促進による自家用車利用からの転換
- ・ パーク&バスライド等を実施しによる繁忙期の混雑緩和と環境保護
- ・ 鉄道・バス等で表示やアナウンスの多言語対応

d. 多様な宿泊ニーズに応える施設の充実

- ・ 富裕層向け宿泊施設の誘致を検討
- ・ 既存施設の宿泊メニューの多様化等を検討
- ・ オートキャンプ、グランピング等、アウトドアでの多様な宿泊のための環境整備

イ 観光資源の磨き上げ

- ・ 自然、歴史文化等を深く楽しめる体験メニューやツアープログラムの開発
- ・ 既存の観光資源を外国人目線から再評価し、インバウンド向けに改善
- ・ 冬季の体験メニューの充実
- ・ レンタサイクルや水上交通など、新しい交通手段整備による周遊性の向上
- ・ 自然歩道と周辺の観光資源をテーマ性を持たせてネットワーク化し、多様な散策ルートを設定

ウ エリア間・素材間の連携

- ・ 日光国立公園内を横断する新たな二次交通の整備
- ・ ストーリー性を持たせた広域周遊モデルコースの設定と旅行商品化

エ 景観整備

- ・ 公園内及びアクセスルートにおいて、自然公園法や自治体の景観条例、屋外広告物条例を適切に運用
- ・ 景観を阻害する廃屋の取扱い方針等を検討

(2) 各エリア・ビューポイント（重点取組地域）の取組方針

ア 日光エリア ～水環境と調和した歴史遺産めぐり

a. 世界遺産周辺

i) 概要

世界遺産・日光の社寺を中心とした歴史・文化エリア。社寺の門前町や田母沢御用邸記念公園等、様々な歴史・文化遺産があり、外国人観光客が集中する。

ii) 取組方針

歴史ガイドツアーや文化体験等を中心に磨き上げを行うとともに、訪れた外国人観光客を他エリアに周遊させる仕組みを作る。

iii) 実施内容

作業部会で検討中

b. 中禅寺湖畔

i) 概要

中禅寺湖周辺の自然エリア。大使館別荘など国際避暑地としての歴史、山岳信仰の聖地としての歴史等、歴史・文化的な資源も多数。

ii) 取組方針

国際避暑地としての歴史を体感できる一体的な施設整備を行うとともに、水上交通やレンタサイクル、歴史ガイドツアーなど新たなプログラムの創出を検討する。

iii) 実施内容

作業部会で検討中

c. 奥日光・湯元

i) 概要

ラムサール条約湿地「奥日光の湿原」や滝、湖、山、温泉を中心とした自然エリア。赤沼情報センター、湯元ビジターセンター等、周遊のための拠点施設も充実している。

ii) 取組方針

拠点施設の機能強化やモデルコース整備等を行い、周遊のきっかけを作る。

iii) 実施内容

作業部会で検討中

d. 霧降高原

i) 概要

霧降高原や霧降の滝などを中心とした自然エリア。スキー場跡に遊歩道が整備されているほか、滝のガイドウォークや冬季のスノーシューなどのアクティビティが提供されている。

ii) 取組方針

自然体験・アクティビティを中心に磨き上げを行う。

iii) 実施内容

作業部会で検討中

イ 鬼怒川エリア ～温泉から行く手軽な自然体験

a. 鬼怒川・川治温泉

i) 概要

鬼怒川渓谷沿いに温泉街が立ち並ぶ温泉エリア。温泉街の街歩きや大型のテーマパークが楽しめるほか、渓谷を活かした様々なアクティビティも提供されている。

ii) 取組方針

駅や温泉地から手軽に自然体験が楽しめる場所として、散策路の整備や自然体験メニューの磨き上げを行う。

iii) 実施内容

作業部会で検討中

b. 湯西川・川俣・奥鬼怒

i) 概要

瀬戸合峡など渓谷の景観や高層湿原「鬼怒沼」などが楽しめる自然エリア。湯西川温泉は、平家の隠れ里としても知られる歴史・文化エリアにもなっており、秘湯の温泉地としても知られている。日光国立公園内でも特に雪の多いエリアで、冬季には雪を活かしたイベントやアクティビティも行われている。

ii) 取組方針

温泉地を拠点にトレッキング等が楽しめるよう、散策経路を中心に整備を行うとともに、平家の隠れ里としての独特の歴史・文化や自然環境、温泉等を活かし、手軽に秘境感を体験できる場として整備する。

iii) 実施内容

作業部会で検討中

ウ 那須エリア ～山や森とふれあうロイヤルリゾート

a. 那須高原

i) 概要

那須山麓の豊かな森林が広がる自然エリアで、開湯約 1300 年の古湯・那須湯本温泉などの温泉地が点在。那須御用邸が所在し、皇室ゆかりの地としても知られている。隣接のリゾートエリアには、美術館・テーマパーク・牧場等、様々な観光施設が点在している。

ii) 取組方針

那須平成の森や自然歩道、野営場等を活用し、手軽に森林の中での自然体験が楽しめる環境を整備する。また、リゾートエリアと連携し、国立公

園エリア外と合わせた周遊コースを検討する。

iii) **実施内容**

作業部会で検討中

b. **那須連山**

i) **概要**

茶臼岳・朝日岳・三本槍岳等から成る山岳エリア。ロープウェイの利用も可能で、初心者から上級者まで、レベルに合わせた登山やトレッキング等が楽しめる。

ii) **取組方針**

登山利用者が安全かつ快適に利用できる環境の整備を行う。

iii) **実施内容**

作業部会で検討中

c. **板室温泉**

i) **概要**

「下野の葉湯」と呼ばれ、独自の湯治文化のある温泉エリア。

ダム湖や溪流を活かしたアクティビティも提供されているほか、ホテルの観察会等も行われている。

ii) **取組方針**

古くから湯治の里として親しまれてきたポテンシャルを活かし、温泉と周辺の自然体験とを組み合わせた新たなリフレッシュの場として整備する。

iii) **実施内容**

作業部会で検討中

エ **塩原エリア ～7色の温泉と渓谷アクティビティ**

a. **塩原温泉郷**

i) **概要**

渓谷沿いに温泉街が広がり、6泉質・7色の温泉が楽しめる温泉エリア。多くの文人・墨客に愛された温泉地としても知られている。塩原温泉ビジターセンターによる自然体験ツアーや、渓谷を活かしたアクティビティも提供されている。

ii) **取組方針**

温泉を拠点に、本格的な自然体験が楽しめるよう、ガイドが使用する歩道等の整備や、自然体験プログラムの磨き上げ等を行う。

iii) **実施内容**

作業部会で検討中

b. **八方ヶ原**

i) **概要**

ツツジの群生地として知られる自然エリア。

ii) 取組方針

ツツジの群生地を中心に、安全かつ快適に利用できるよう施設整備を進めるとともに、「山の駅たかはら」を拠点としたアクティビティ利用や、隣接する塩原温泉郷を拠点としたハイキング利用等を検討する。

iii) 実施内容

作業部会で検討中

(3) 宣伝・誘客

現在は観光資源ごと、又は市町ごとの情報発信が主体となっているものを、日光国立公園として一元的に情報発信を行い、国立公園全体での誘客を図る。

また、世界的にも知名度のある「日光」のネームバリューを活用した宣伝展開を実施する。

ア B t o B（旅行会社向け）の宣伝

a. 発地（海外向け）の宣伝

海外の旅行エージェントによる旅行商品造成・情報発信の促進のため、J N T O 等と連携しながら、旅行エージェントを招へいしたファミトリップを実施する。

合わせて、自治体による海外プロモーションや旅行博での PR においても日光国立公園としての情報発信を行っていく。

b. 発地（国内拠点向け）・着地（日光国立公園内）の宣伝

2018 年開催の J R の「栃木デスティネーションキャンペーン」や J T B の「日本の旬 北関東」等の大型キャンペーンとも連携しながら、国内旅行エージェントによる現地でのガイドツアーや体験ツアー等のオプションルツアーの造成を促進していく。

イ B t o C（個人向け）の宣伝

a. 発地（海外向け）の宣伝

環境省ホームページや、県の既存の多言語ホームページを情報のハブ的に活用し、日光国立公園の魅力や見所、体験メニュー等を一元的に発信していくほか、WEBと連動した S O N S 等による情報発信を実施する。

また、特に欧米系の F I T 客の重要な情報源になっている「ロンリープラネット」等のガイドブックへの掲載についても働きかけを行う。

b. 発地（国内拠点向け）の宣伝

J N T O が認定するビジット・ジャパン案内所のうち、全国のカテゴリーⅢに該当する案内所や、関東周辺及び京都や広島等の外国人観光客が集中するエリアのカテゴリーⅡの案内所及びホテルコンシェルジュ用の案内資料を作成・配布し、観光案内やツアー手配の担当者向けに観光資源や体験等の予約方法、交通アクセス等に関する情報発信を行う。

また、近隣の国際空港や首都圏の J R 駅等、多くのインバウンド旅行者が

見込める交通拠点での広告掲出や、前述のビジット・ジャパン案内所やホテルへの旅行者向けの誘客パンフレット等の作成・配架による情報発信を行う。

さらに、十和田八幡平国立公園等、周辺の満喫プロジェクト先導モデル公園と連携し、国立公園をつなぐ広域周遊ルートの提案を検討する。

ウ 着地（日光国立公園内）の宣伝

日光国立公園エリア内各地域の情報を他の地域の観光施設や宿泊施設、案内所等でも発信することで、国立公園内での周遊促進及びリピーターの確保を狙った仕組み作りを実施する。

(4) 取組のスケジュール

年度	H28	H29	H30	H31	H32
イベント等		プレDC、山の日、技能五輪	DC	アフターDC、ラグビーW杯	東京五輪
取組	(今後検討)				
数値目標 達成目安	10万人(推計)		中間値		目標値

(5) 推進体制

本プログラムを確実に実行していくには、各地域における官民連携の推進組織が必要となる。

環境省・林野庁・国土交通省・観光庁等の国の機関、関係自治体、交通事業者・宿泊事業者・観光団体等の民間事業者が連携し、発足予定となっているDMOや、既存のデスティネーションキャンペーン地域分科会やインバウンド協議会等の組織を推進組織として、一体的に取組を進めていく。

5. 効果検証

(1) 目標達成率による検証

2020（平成32）年度までの環境省国立公園別実利用者数推計値による日光国立公園外国人利用者数推計値及び栃木県観光客入込数・宿泊数推計調査による日光国立公園周辺の外国人宿泊者数の推移により検証を行う。

(2) 聞き取り調査による検証

日光国立公園の複数箇所で定期的に外国人観光客に対する聞き取り又はアンケート等により、滞在日数や消費額等を調査し、その推移により検証を行う。

合わせて、日光国立公園の情報をどのような媒体から取得したか、受入環境の整備状況に対する評価等についても調査し、必要に応じ、本プログラムを改定していく。